

事業所名	EISUみらい塾		公表日		2025年 2月 13日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	0	・適度な距離を確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	・1対1での療育ができています。	・めったにないが、職員の急な休みの場合に1対1の対応ができない場合もある。(2)
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(こども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫する)になっていると思いますか。	10	0	・活動に必要な用具は整理して置き場所を決め、ラベルを貼って分かりやすく示している。 ・活動用具は学習中には視界に入らない位置に配置している。	
		事業所の設備のバリアフリー化として入口ドア前とトイレ前のスロープ、ドアノブの滑り止めゴム、情報過多にならないように学習場所にパーテーションを設置しています。これらの配慮は適切だと思いますか。	10	0	・学習に集中できるようにパーテーションで区切り、他の利用者のことが気にならないようにしている。	
		また他にどんな配慮が必要だと思いますか。(記述)				・視覚支援として、「物の居場所の地図」など。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	10	0	・毎朝、清掃、机等の除菌を行っている。	・職員室は年々物が増え、雑多になってきているので整理が必要である。	
	また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・体育室の利用により、体を動かす活動、音楽活動も行いやすい。 ・丸テーブルはカードゲームや創作活動など多様な活用に利用できる。	・今後もこの取り組みを継続していく。	
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	・応接室や和室(休養室)など、静かに落ち着いて活動できる場所がある。	・今後もこの取り組みを継続していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	・朝の会議で療育について、業務についての課題と改善点の確認、共有を行っている。	・非常勤の講師とも情報交換できる場を作っていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・年1回のアンケートを実施している。 ・アンケートのチェック項目はできるだけ分かりやすい表現や具体例を書き加えて評価しやすいように工夫している。(文字の大きさも読みやすい大きさにしている)	・今年度の保護者アンケートは両面印刷にしていたため、裏面は記入していない保護者がいたため、意図的に評価していないのか、記入漏れかを確認し、記入漏れの場合はその場で評価してもらった。最初に「〇ページあります」など、見落としのないようにする必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・朝の会議が、問題点や改善案を出し合う、上手くいった点を共有する場として機能している。 ・気づき等その場ですぐに共有する場合もあり、臨機応変に対応できている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		・第三者評価の導入を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・外部の研修は案内があった場合は講師も含め全員に情報提供している。 ・特に必要な研修については、公費で参加できるように調整している。 ・所内研修は年間計画をたてて実施している。	・最近はオンラインでの研修も多く、参加しやすいが、職場にいると優先順位が下がってしまって勤務時間内に受講することができにくい。 ・所内研修も予定していても、他の予定が入ったり電話などで中断したり時間確保が難しい。
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	・HPにアップしている。 ・個別支援計画を渡す際に、プログラムを提示しながら説明をしている。	・保護者はHPをあまり見ていないようなので、HPの宣伝を行う。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、「個別支援計画」を作成しているか。	10	0	・アセスメントやモニタリングで子どもと保護者のニーズや課題を分析したり、真のニーズは何かを検討した上で個別支援計画に反映させている。	・今後もこの取り組みを継続していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	13 「個別支援計画」を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	・児童発達支援管理責任者が作成した目標の検討、また具体的な支援方法を出し合うという手順を踏んで作成している。	・現在は常勤職員で提案、検討しているが、非常勤講師も提案や検討に加わってもらうようにしていきたい。
	14 「個別支援計画」が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	・ケース記録の表紙の裏面に「個別支援計画」を貼り、毎回すぐに確認できるようにしている。また、個々のケース(箱)を準備し、その中にも前回担当者からの申し送り事項を書いた用紙を入れて、療育・支援が点にならないように工夫している。	・SSTやビジョントレーニング、コグトレなど準備不足で実施できないことがある。個々に必要な内容のワークシート等をまとめて、「〇〇さん用のSST」等を作成したがまだ十分に活用できていないので、今後しっかりと使えるようにしていく。 ・また、実施後に評価し、内容をバージョンアップしていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・アセスメントシートと行動観察によって確認している。	・アセスメントシート以外には標準化されたツールを使っていないので、今後取り入れられるように検討する。
	16 「個別支援計画」には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・すべての項目を網羅できるように確認している。	・地域支援、地域連携の取り組みは十分ではないと感じている。まずは、どのような形での取り組みがあるのか情報を入手するところからとりかかりたい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	・普段は個別支援のため、個人で計画を立てることが多い。 ・特設行事等の集団療育の場合は担当者を中心に意見を出し合っ、全員で立案に関わっている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	・一回の利用の流れは固定しているが内容は毎回違ったものに取り組んでいる。 ・個人の活動は自己選択が主であるが、視野を広げるためにも様々な活動を提案するようにしている。	・子どもによっては、毎回同じ活動になってしまう場合もある。(同じ活動の中でも反応の違いや、やり方の工夫などその子にとっては成長のための大切なステップととらえ、職員間で少しの変化も共有しながら次のステップへとつなげられるとっかかりを探っている。)
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	・1対1での療育をしているので、基本的には個別活動である。 ・同時間帯に利用している子ども同士が小集団での活動をする場合も、担当の子どもの言動に気を付けて、良い点を褒めたり、問題点は解決できるように支援したりしている。	・利用時間帯によっては集団活動をするのが難しい場合もある。 ・個別療育ではカバーしきれない経験もあるので、今後どのように集団(小集団)療育を取り入れていくべきか検討していく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	2	・朝の会議での打合せ時に確認をしている。 ・こどもの状態に合わせてその日の支援内容や役割分担を変更している。 ・空き時間の職員は状況に応じてサポートに入ることもある。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	・終了後は十分な時間が取れないため、緊急性のあるものだけを報告・連絡し、詳細は次の日の朝に共有するようにしている。	・短時間でも打ち合わせの時間を確保していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	・療育後、その日のうちに記録を書くようにしている。 ・記録をもとに、適切な支援を考え、支援内容を決定している。 ・記録が冗漫にならないように、定期的に記録の様式を見直し改善している。	・記録を見ることを徹底できるように方策を立てていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	23 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	・年3回の評価、モニタリングを計画しており、目標の達成度や支援の有効性を検証するとともに、本人や保護者の意見を聞き、見直しを行っている。	・年3回の見直しにすると、評価に追われるようになるので、いかに効率的・効果的に評価していくか工夫していく必要がある。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	7	0	・特設行事や季節にあったミニ行事を行い、活動に変化を持たせている。 ・ボランティアの受け入れを行っている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0	・活動は自己選択で行っている。その際に、待つ姿勢を大切にすること、何でも言っているという安心感が与えられるようにすること等、全職員共通認識のもとに取り組んでいる。 ・また、選択肢を準備することもあるが、その中から選ぶことや断ることも自己選択の一つとしてとらえ、こどもが自己選択したという意識を持てるようにしている。	・子どもができるようになったことなどを見極めて、職員間で共有し、次のステップへ移行して行けるようにしていくことが必要である。特に評価をする際にはこの点にも注意して子どもが少しずつ高い目標へ向かっていけるように支援していきたい。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・サービス担当者会議等には児発管が出席するようにしている。 ・また、会議後には必ず報告するとともに、記録を作成し回覧することで情報共有を行い、職員の共通認識のもとに療育が行えるようにしている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	・医療機関に協力を依頼し連携できる状況を構築している。 ・不登校児童生徒の在籍する学校との連携を行っている。	・積極的な連携はできていないので、こちらからの働きかけを検討していく。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	・学校の情報は子どもを通じて入手している。 ・送迎時やトラブル発生時は即時対応できるように携帯電話を所持している。	・連絡調整用の携帯電話は個人のものを使用している。事業所の携帯電話があれば尚よい。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	・児童発達支援事業所とは必要に応じて連携している。	・他の機関とも必要があれば連携していく。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	・情報提供が必要な場合には対応できるように準備はしている。（これまで障がい福祉サービス事業所へ移行するケースはない）	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3		・助言や研修を受ける機会を設けていなかったため、積極的に活用していく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4		・今のところ計画はないし、必要性を感じている児童や保護者も少ない。しかし、地域移行支援の観点から今後取り組むことを視野に入れて運営していく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 <small>※昨年度は1回参加</small>	5	2	・本年度は土曜日開催のため参加しやすい。参加した場合は他の日に振替休をとれるようにしている。 ・会議内容を全体に共有している。	・今年度は報告会、研修会に2名参加の予定である。 ・今後も本市の福祉行政についてより具体的に把握するためにも積極的な参加を募っていく。
34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	・保護者送迎時に情報交換、情報共有を行っている。 ・また、課題や成果などは職員間でも共有し、今後の方針について協議し反映させている。	・保護者送迎のない家庭についてはなかなか話し合いの場が持たない。連携が必要な場合には電話連絡を主にしているが、日ごろの様子は伝えきれていない。 ・モニタリングの回数を年3回に増やしたので昨年度よりは情報交換はできているが、他の方法も検討していく。	
35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・掲示板に外部の研修やイベントの案内を貼ったり、保護者が気軽に手に取りやすいようにカウンターに置いたりしている。 ・他事業所の案内パンフレット等もファイリングしてカウンターに置き、気軽に見ることができるようになっている。	・事業所として家族支援プログラムを実施していないので、まずは職員がペアレントトレーニングの実施ができる力をつけるための研修を行う。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・契約時に説明を行っている。 ・支援プログラムについてはR6年5月に作成したので個別支援計画と一緒に説明した。	・今後新たに契約をする場合には契約時に説明を行う。 ・また、個別支援計画とともに補足説明も行う。
	37 「個別支援計画」を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	・モニタリング時と支援計画の受け渡し時に子どもや保護者の意思を確認している。	・モニタリングや個別支援計画の受け渡し時に効果的・効率的に意思疎通を図るために受け渡し方法の工夫（事前にお渡ししておいて後日お話をする時間を設定するなど）を試みている。
	38 「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から「個別支援計画」の同意を得ているか。	8	0	・基本的には保護者に直接内容の説明を行い、同意を得ている。 ・対面で説明できない場合は電話で連絡している。	・来所が難しい保護者への対応方法を検討する。できるだけ対面で話ができるように、家庭訪問をするなど試みる。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	・希望に応じて時間設定をしている。 ・できるだけ多角的に助言や支援ができるように、複数の職員で対応できるようにしている。（基本的には児童発達支援管理責任者が行う）	・今後もこの取り組みを継続していく。
	40 保護者同士の交流の機会、家族への支援を行うため年2回の保護者会を開催しているが、回数や内容等は適切であるか。	10	0	・保護者同士が自由に話ができる場も必要であるが、情報が偏らないように、また、視野を広げていただくために、毎回テーマを設定してワークショップ型のミーティングを行っている。	・保護者会に参加される家庭の児童生徒の預かりをしているため、保護者会の運営につける職員数が限られてくる。今後、保護者会開催時の預かりをどのようにしていくか検討する。 ・回数、開催日についても検討する。（土曜日は参加ができない保護者もいるので、平日開催があってもよい）
	41 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	・苦情相談窓口を設け、対応できるようにしている。 ・重要事項説明書に示す、所内にポスターを張る、HPに掲載するなど周知している。 ・苦情があった場合には迅速に対応、改善し、職員全員での共通認識の下で取り組んでいる。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	・HP、通信等でお知らせを発信している。	・HPについては見ていないという保護者もいるため、もっと見られるように宣伝をする。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		・職員室の机の上にケース記録等が置いてある場合があるので、声を掛け合って個人情報取扱いの危機管理意識を高める。
	44 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・可視化することや、補足説明を書き加えるなどの配慮をしている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		・地域に開かれた事業運営はできていない。今のところ、よいアイデアがないので今後どのように地域に開いていくかを考えていく。
	46 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、重要事項説明書に記載し契約時に説明をするとともに、HPに掲載している。そのことが職員や保護者に周知され、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	・事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、重要事項説明書に記載し契約時に説明をするとともに、HPに掲載している。	
	47 業務継続計画（※BCP/EISUみらい塾では令和6年3月策定）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	・水害、火災、地震の避難訓練を行っている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・アレルギー有無の一覧表を作成するとともに、食品を扱う場合には保護者に再確認をしている。 ・医師の指示書のあるケースは今のところない。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0		・研修や訓練を充実させて、危機管理意識を高めていく。
	51 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・HPに掲載し、周知を図っている。	・HP掲載だけでは十分に周知が図れないので、他の方法を取り入れる。
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・ヒヤリハットの事例については必ず報告し、対応を全職員で共有できるようにしている。 ・過去のヒヤリハット事例についても、適宜回覧し内容をチェックするようにしている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・毎月虐待防止のチェックを行うとともに、チェックから見えてきた課題を共有し、改善へ向けての取り組みにつなげている。	・今後もこの取り組みを継続していく。
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	・身体拘束の適正化についてマニュアルを作成し、それに基づいて対応できるように内容を職員が共有している。 ・今のところ、身体拘束が必要となるケースはない。	・虐待防止と合わせて、毎月のチェックができるように組み込んでいく。